

数学的な見方・考え方を働かせて、課題解決できる児童の育成

— 数学的活動の工夫や自分の考えを表現する場面の設定を通して —

特別研修員 特別支援教育 定村絵里子（特別支援学校教諭）

児童の実態

学んだ一つの方法で進める学習は得意。しかし、方法が違ったり、新たな課題に直面したりすると、混乱して困る。

いつものやり方なら、分かるよ。
やったことのないことは、どうしたらいいの？



授業の実態

単元と単元がうまくつながっていないため、児童が新しい課題を既習事項と結び付けにくくなっている。

新たな課題に取り組むときに、児童が学んだことを生かせるような授業をしたいな。



【目指す児童像】 数学的な見方・考え方を働かせて、課題解決できる児童

授業実践 算数科 単元名「十円玉、何枚で買えるかな」

活用させたい数学的な見方・考え方

- 10のまとまりを1として捉える。○2位数を十の位と一の位の構成で考える。
- 大小関係で数を比べる。

手立て1 数学的活動の工夫

○児童の課題や興味・関心に応じた単元計画の立案

十円玉で二桁の値段の菓子を買う単元計画の立案

○既習事項を次の単元に生かす系統的な指導計画と実生活での活用

10のまとまりで捉えること、位に着目すること、数の大小を比べること

○考えるための手掛かりの工夫（ワークシート、教具など）

10円玉をつかって おかしを買おう。

CHOCOLATE 58円

考える道筋を視覚的に示したワークシート

一円玉10枚で十円玉1枚のまとまりケースと位取り板

位ごとに色分けされた数字カード（十の位：黄、一の位：ピンク）

数直線（1～100）

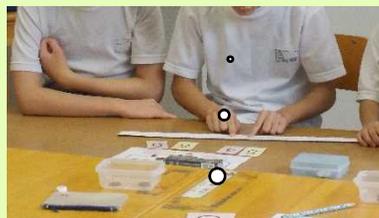
○児童が気付いたときに発した言葉を意図的に使用

「ガシャン」「進化」という言葉とともに、10のまとまりを作りながら数える。

手立て2 自分の考えを表現する場面の設定

毎時間、授業の最後に10分間設定

①表現を助けるワークシートや教具を活用して、自分の考えを表現



値段（54円）の菓子を買うために十円玉が何枚必要であるか教具を使って考えを表現する場面

「60の方が大きいから」

数直線を活用して、自分の考えを表現

②他の児童の考えと照らし合わせて、自分の考えを表現



他の児童の、十円玉が何枚必要であるか判断した理由を聞いて、自分の考えを表現する場面

他の児童の発表を聞いて、自分の考えを表現

成果

- 数えたタイルなどを10のまとまりとバラで位取り板に整理したことは、児童が2位数を十の位と一の位の構成で考えるために有効であった。
- 自分に合った教具を選び、ワークシートに沿って順序立てて数の大小を考えたことで、数の大小についての見方・考え方が身に付いた。
- 児童が気付いたときに発した言葉を意図的に使用したことは、10のまとまりを1と捉えたり、数の大小の見方・考え方の定着を図ったりするために有効であった。
- 校外学習の買い物の場面で、値段に対して一番近い10円を単位とする金額を判断し、支払うことができた。
- 自分の考えを表現する場面を設定したことは、2位数や数の大小の理解を深めるために有効だった。

課題

- 児童によっては物の形状や大きさが変わると、10のまとまりを作って数えることが難しかった。形状や大きさが変わっても10のまとまりを意識できるようになるために、指導の工夫が大切である。
- 今後は、測定の内容について単元計画を立案し、長さ、広さなどについて、身の回りにあるものの大きさを単位として大小を比較したり、表現したりすることを通して、数の大小の理解を一層定着できるようにする。